

井戸端だより第 80 号記念

20 周年記念号



くらしの学習会活動記録

第 51 号(2005 年 9 月)～第 80 号(2012 年 12 月)

もくじ

くらしの学習会 20 周年	
くらしの学習会 主な活動の記録 (2005. 9~2012. 12)	
ジャコウアゲハの絵葉書 8 枚組作成	・・・・・・・・ 1
パネル展 (写真)	・・・・・・・・ 1
出会い塾	・・・・・・・・ 2
東温市・行政機関との関わり	・・・・・・・・ 3
文化・歴史・美術館を訪ねて	・・・・・・・・ 3
自然探訪	・・・・・・・・ 6
くらしの学習会綾支部	・・・・・・・・ 9
会報『井戸端だより』もくじ一覧 (第 51 号~第 80 号)	・・・・・・・・ 10
『井戸端だより 80 号』・・・20 年の歩みを振り返って	・・・・・・・・ 17
くらしの学習会との思い出	・・・・・・・・ 20
私にとっての学習会	・・・・・・・・ 22
『井戸端だより 80 号』によせて	・・・・・・・・ 23
20 年を振り返って	・・・・・・・・ 24
専業主婦となり地域社会とかかわった 20 年	・・・・・・・・ 26
井戸端だより 80 号	
10 月・11 月・12 月例会報告	・・・・・・・・ 28
「井内の棚田」の風景を求めて	・・・・・・・・ 28
この頃の自然な暮らし初体験 ～だし醤油・梅干し・味噌づくり～	・・・・・・・・ 30
父に会いたい	・・・・・・・・ 31
イノシシと知恵比べ～中島より～	・・・・・・・・ 32
雑感	・・・・・・・・ 33
愛媛新聞より	・・・・・・・・ 38
最近の活動あれこれ	・・・・・・・・ 39
編集後記	・・・・・・・・ 41
お知らせ	・・・・・・・・ 42

くらしの学習会主な活動の記録

★ジャコウアゲハの絵葉書8枚組作成 (2005.6)

販売場所：丸三本店・支店 (1部 350円)

展示場所：

- ・東温市役所
- ・東温市中央公民館
- ・重信郵便局
- ・フジゆるぎの郵便局
- ・伊予銀行横河原支店
- ・いわがら児童館
- ・かすみの森の公衆トイレ
- ・コープえひめの東地区
のトラック4台に展示
(チラシを付けて)



★パネル展 (写真)

- ・残したい東温市の自然展 (2008.7.26)
- ミニ講演会 野鳥の勉強会 (2006.6.7)
- 東温市の野鳥・動物スライド映写会 (2007.3.20)



・蝶のくる庭（庭で楽しむジャコウアゲハ）写真展

～会員の自宅周辺に飛んでくるジャコウアゲハを1年間観察し撮りためた写真をまとめたもの～

東温市中央公民館（2011.3.11～31） 川内公民館（2011.4.12～23）

中央図書館（2011.7.21～8.15）



★出会い塾

・イラン人 アリ・マフィさんの家族（ご夫婦と子ども2人）（2005.12.23）



・ポーランド人 セバスチャンさん（2006.3.22）



出会い塾
では一品持
ち寄りのご馳
走が並ぶ

・マダガスカル人 バムさん
(2007. 2. 22)



・インドネシア人 大田リリスさん
(2009. 6. 10)



★東温市・行政機関との関わり

- ・東温市満1歳 9月議会傍聴 (2005.9.21)
- ・東温市議会傍聴 (インターネットによる) (2006.3.14)
- ・東温市議会傍聴 (2005.12.13) (2007.3.13) (2011.9) (2012.6) (2012.9)
- ・高須賀市長との懇談会 (2006.6.27)
- ・出前講座～ごみ行政～ (2007.11.28)
- ・東温市行政座談会 (2009.11.6)
- ・国交省松山河川国道事務所重信川出張所訪問 (2011.7.13)
- ・出前講座～介護保険～ (2012.5.29)



出前講座～介護保険～ (2012. 5. 29)

★文化・歴史・美術館を訪ねて

- ・愛媛県紙産業研究センター、紙の町資料館見学 (2005.9.3)
 - ・岡本太郎の「明日の神話」に直面 (2006.3.25)
 - ・坂の上の雲ミュージアム見学 (2007.6.12)
 - ・伊丹十三記念館へ (2007.12.17)
 - ・西予市宇和町卯之町 先哲記念館、民具館、開明学校 (2012.7)



- ・与勇輝人形芸術の世界展 (2008.1.29)
- ・白形毅史水彩画展
(2008.1.29) (2009.2.28)
- ・久万青銅の回廊 (2008.4.9)

・香川県立
東山魁夷瀬戸内美術館見学
～瀬戸大橋をバックに～
(2008.9.9)



・南日本自然史博物館を訪ねて (2008.10.22)



・椿桜俳句の里を訪ねて (2009.4.17)
～西法寺・一草庵・庚申庵・ロシア人墓地・足立重信翁墓地～



愛媛県研修センター



西法寺 (薄墨桜)



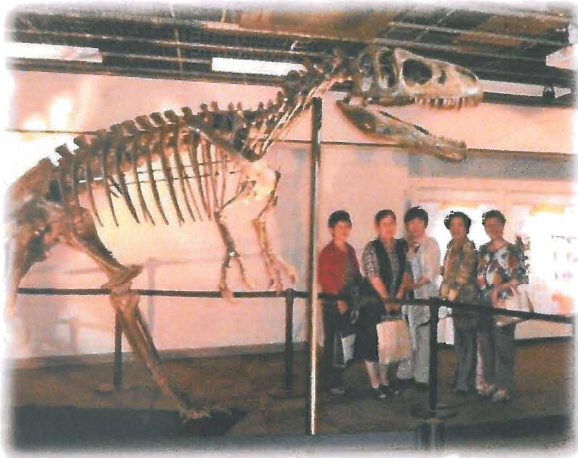
一草庵

庚申庵



足立重信翁の墓
後方ロシア人墓地

- ・西条市愛媛民芸館と西条郷土博物館 (2010.3.2)
- ・愛媛大学ミュージアム見学 (2010.6.9)



スタジオ
プロバンス
で昼食



- ・久万町シオンの家 (グループホーム)
- 上黒岩遺跡考古館 (2011.5.17)



- ・三津の町並み
散策 (2011.12.3)



古民家
鯛やで
昼食



三津の渡し



★自然探訪

・今治蛇越池湿地のサギ草をみる (2005.9.3)



・今治市民の森フラワーパーク (2006.7.11)



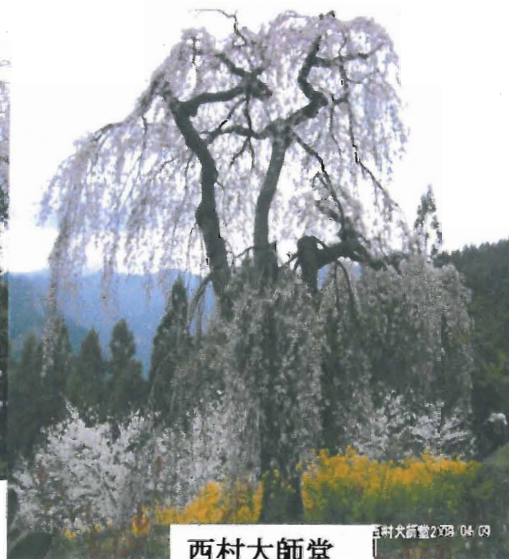
・内子町・五十崎堂ヶ谷トンボの里 (2007.9.18)



・土佐と伊予のしだれ桜巡り (2008.4.9)



中越家



西村大師堂



法連寺

・久万高原町甲斐工房訪問 (2008.11.12) (2011.5.1)



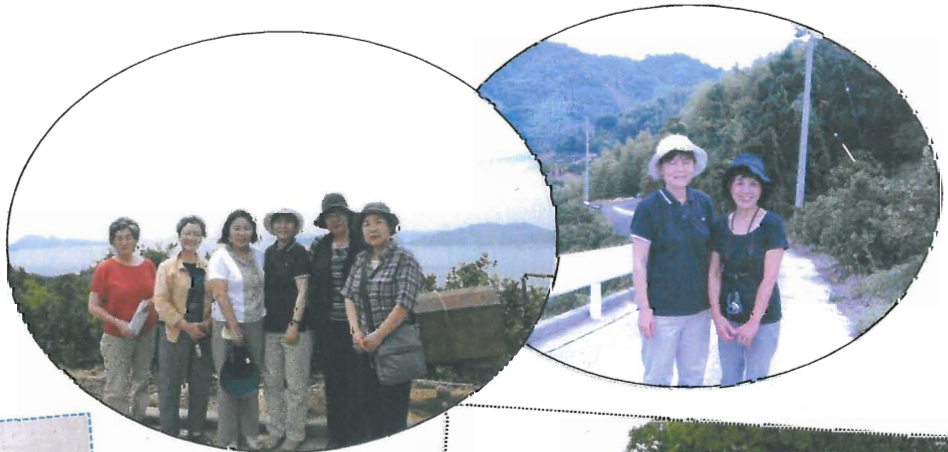
・七折れ梅まつり (2009.2.28)



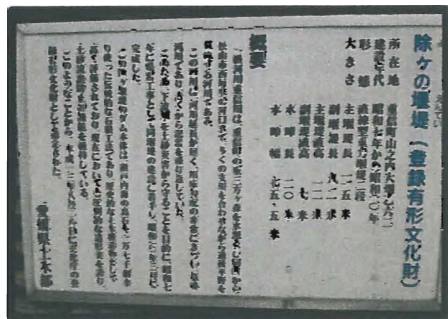
・松山市中島を訪ねて
(2009.9.3)

～みかんと太陽と
トライアスロンの島～

3つの小学校が
合併した中島小学校



・多自然川づくり研修会参加 (2010.8.31)



・自然観察会に参加
重信川・三ヶ村泉 (2011.6.14)



・今治・小島の遺跡めぐりと島民との対話 (2011.10.12)



・井内の棚田と赤蕎麦畑 (2012.9.26)



ぼたん茶屋
地鶏の炭火焼き
&自家栽培
の赤蕎麦



★くらしの学習会綾支部 ~綾町の四季~



夏：綾北川



冬：千切り大根干し

春
裏の小径



秋
自宅周辺



くらしの学習会 会報「井戸端だより」もくじ一覧

第51号 (2005年9月27日発行)

- ・ ジャコウアゲハの絵ハガキ
(8枚組) を作りました (S・K)
- ・ ジャコウアゲハ重信川堤の生育地について (K・K)
- ・ 9月例会 (A・M)
～今治蛇越池湿地のサギ草をみる
愛媛県紙産業研究センター見学
紙の町資料館見学～
- ・ 続・育児観察日記その1「それは私です」(T・S)
- ・ 東温市満1歳 (S・K)
- ・ 人類の行く末に警鐘を鳴らした女性達を思う (S・M)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 9月雑感 (R・D)
- ・ ペットフードから考えたこと (E・K)
- ・ 行ってみた中国 (T・K)
- ・ 読者からのたより 今後の予定
- ・ 編集後記 (S・K)

第52号 (2005年12月27日発行)

- ・ 10.11月例会報告 (T・K)
- ・ 12月例会報告 (出会い塾イランの話)
(T・K)
- ・ 留学生の話を聞いて (N・K)
- ・ 大気中の二酸化窒素の測定結果報告
(A・M)
- ・ 地球環境を守るためのエネルギーに関する市民アンケートのお願い
- ・ 市議会報告・他 (S・K)
- ・ 新聞切り抜き (給食センター統合)
- ・ 新聞切り抜き (牛渕ミュージアム再建)
- ・ 今年の終わりに (R・D)
- ・ 雑感 (K・O)

- ・ 県内外国人登録者数
(県国際交流センター資料)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第53号 (2006年3月27日発行)

- ・ 1月例会 (総会) 報告 (S・K)
- ・ 2月例会報告 (S・K)
- ・ 3月例会報告
～出会い塾—①ポーランド人 (R・D)
出会い塾—②簡単ポーランド講座～
(T・H)
- ・ 愛媛新聞より
～生物の宝庫 東温・三ヶ村泉～
- ・ ポーランドのお話・午後の部 (A・M)
- ・ 歌集 心の叫び (S・K)
- ・ 愛媛新聞 ～市議会～ (S・K)
- ・ 愛媛新聞 ～明日の神話と対面～ (A・M)
- ・ 愛媛新聞より～黒舟としての岡本太郎
- ・ 読者からのたより
- ・ 愛媛新聞より～坊っちゃん劇場～
- ・ 編集後記 (S・K)

第54号 (2006年6月30日発行)

- ・ 4月例会報告 (S・K)
- ・ 5月例会報告 (S・K)
- ・ ミニ講演会～野鳥の勉強会～ (K・K)
- ・ 6月例会報告
市長との懇談会—① (S・K)
市長との懇談会—② (R・D)
高須賀市長との面談での質問
(ゴミに関して)—③ (A・M)
- ・ 愛媛新聞掲載文
～プラ容器包装ごみ松山市の処理
最低評価～
- ・ ミュージカル「坊っちゃん」を観劇し

て (A・M)

- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞掲載文
～つながったピース『明日の神話』
修復完了上・中・下～
- ・ 愛媛新聞掲載文
～東温「となり町戦争」ロケ～
- ・ 愛媛新聞掲載文
～需要のびるヤシ油
熱帯林破壊の一因に～
- ・ お知らせ

第 55 号 (2006 年 9 月 27 日発行)

- ・ 7 月例会報告 (A・M)
～今治例会 市民の森フラワーパーク
55 番札所南光坊、
ポヌール・プッソールで昼食～
- ・ 9 月例会報告～防災アイデア～ (E・K)
- ・ 行ってみたドイツ・ポーランド・チェコ
(T・H)
- ・ プラ容器包装ゴミ品質のその後 (A・M)
- ・ 愛媛・朝日新聞切り抜き
- ・ 寄り道の楽しみ (R・D)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 10 月例会予定 編集後記 (E・K)

第 56 号 (2006 年 12 月 27 日発行)

- ・ 10 月・11 月例会報告 (T・H)
- ・ 12 月例会報告 (T・H)
～新築した会員の家を訪ねて～
- ・ 暮らしの学習会規約
- ・ 文化協会って (文化祭に思うこと)
(S・K)
- ・ 市議会 (新聞切り抜き)
- ・ 新聞切り抜き (芸術・芸能活動相次ぐ)
- ・ 新聞切り抜き (プラごみ分別)
- ・ 阿部司講演会に参加して (E・K)
- ・ 水辺を歩く (A・M)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第 57 号 (2007 年 3 月 22 日発行)

- ・ 総会・2 月・3 月例会報告 (T・H)
- ・ 2006 年度会計報告
- ・ さよなら バムさん (マダガスカル)
(M・T)
- ・ 東温市の野鳥・動物スライド映写会
(T・H)
- ・ 議会だより (S・K)
- ・ 困った道 (Sa・K)
- ・ ニュージーランド・オーストラリア観光雑
感
- ・ モコの生命力 (R・D)
- ・ 同級生 (S・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第 58 号 (2007 年 6 月 25 日発行)

- ・ 4 月例会報告 酒だるへ (S・K)
- ・ 5 月例会報告 (S・K)
- ・ 6 月例会報告 (S・K)
～坂の上の雲ミュージアム見学
- ・ ジャコウアゲハのその後 (K・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞より「坂の上の雲」関連
- ・ 地球温暖化は一人一人で (Sa・K)
- ・ 酒だる村と共に生きて (S・M)
- ・ 「映画」となり町戦争 (S・K)
- ・ 進化する東温市図書館 (A・K)
- ・ 働きたい気持ち (M・T)
- ・ 汚泥が消える (M・T)
- ・ ある教え子の帰国に思う (T・H)
- ・ 愛媛新聞より～東温市議会～
- ・ 食に関して思う事 (A・M)
- ・ 九死に一生を得る (R・D)
- ・ うちの子の運動神経がいい！？ (S・T)
- ・ 伊丹十三記念館へ行ってきました (E・K)
- ・ 家庭教育って (藤原喜久利)
- ・ お知らせ・編集後記 (S・K)

第 59 号 (2007 年 10 月 2 日発行)

- ・ 9月例会報告 (A・M)
～内子町五十崎堂ヶ谷トンボの里へ
手漉き和紙工場～
- ・ 行ってみたアメリカメイン州・カナダ
(T・H)
- ・ 「マイ箸持参」考 (A・M)
- ・ ジャコウアゲハの舞う庭に (S・K)
- ・ ボランティア (M・T)
- ・ ストレスは怖い (Sa・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 学問とは氷のような物なり
(藤原喜久利)
- ・ 中国児童教育援助協会資料
- ・ 編集後記 (E・K)

第60号 (2007年12月22日発行)

- ・ 10月例会報告
- ・ 11月例会報告 (A・M)
～出前講座「ごみ行政について」～
- ・ 愛媛新聞記事～バイオマス活用～
- ・ 愛媛新聞記事～市議会～
- ・ ジャコウアゲハ冬眠中 (S・K)
- ・ 12月例会報告 (M・T)
～伊丹十三記念館～
- ・ ジャコウアゲハ絵はがき 会計報告
- ・ 子ども達に伝えたい事 (菅 未帆)
- ・ 愛媛新聞より
～バン格拉デシュ・サイクロン直撃～
- ・ 新潟県中越沖地震に係わる医療支援に
行ってきました (M・O)
- ・ フィリピン・セブ島へ同級生の旅 (S・K)
- ・ 老人医療費 (Sa・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第61号 (2008年3月26日発行)

- ・ 1月例会 (総会・新年会) 報告 (S・K)
- ・ 2月例会報告 (A・M)
～与勇輝人形芸術の世界展
白形毅史 水彩画展～

- ・ 3月例会報告 (S・M)
～Oさん宅の家庭菜園とお雛様をみて
- ・ 手抜き料理反省 (Sa・K)
- ・ 完熟「一期座」(M・T)
- ・ ジャコウアゲハ 羽化も近い (S・K)
- ・ 東京～さまざまな出会い～
- ・ 行ってみたベトナム ハノイ (T・H)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞より 東温市議会ほか
- ・ お知らせ

第62号 (2008年6月28日発行)

- ・ 4月例会報告 (A・M)
～土佐と伊予のしだれ桜巡り
久万青銅の回廊～
- ・ 愛媛新聞「玉糸桜」関連記事
- ・ 愛媛新聞「東温ブランド」関連記事
- ・ 5月例会報告 (K・O)
- ・ 6月例会報告 (T・H)
- ・ ジャコウアゲハ (S・K)
- ・ 労働者派遣法について (M・T)
- ・ 老人医療費の今昔 (Sa・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第63号 (2008年9月29日発行)

- ・ 「残したい東温市の自然展」開催報告
(A・M)
- ・ 「残したい東温市の自然展」来場者の声
- ・ 9月例会報告 (M・T)
～香川県立東山魁夷瀬戸内美術館へ
カサ・デル・マールで昼食～
- ・ 日本語教育学世界大会2008に参加して
(T・H)
- ・ 人生精一杯 (Sa・K)
- ・ ことしもジャコウアゲハが (S・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第64号 (2008年12月22日発行)

- ・ 10月例会報告 (A・M)
～「南日本自然史博物館」を訪ねて～
- ・ 愛媛新聞 吉田初三郎 関連記事
- ・ 11 例会報告
～久万高原町 甲斐工房訪問～
- ・ 12月例会報告 忘年会 (T・H)
- ・ 政府 (行政) を選ぶ権利と義務 (S・M)
- ・ なぜ増える罪人 (Sa・K)
年の瀬に (M・T)
- ・ 日本語ボランティア講座に参加して
(M・T)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 普段着の運動会 (T・S)
- ・ 甲斐工房レストランに行ってみて (T・H)
- ・ 神戸ルミナリエ (R・D)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第 65 号 (2009 年 3 月 25 日発行)

- ・ 1月例会 (総会・新年会) 報告 (T・H)
- ・ 2月例会報告 (A・M)
～七折れ梅まつり・白形毅史水彩画展・
子規特別講座聴講～
- ・ 3月例会報告 (K・O)
～観椿会・西法寺～
- ・ 春に (K・K)
～イタリア世界遺産の旅 9 日間～
- ・ 老々介護 (Sa・K)
- ・ シネコンデビューしました (A・M)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞掲載文
- ・ お知らせ

第 66 号 (2009 年 6 月 22 日発行)

- ・ 4月例会報告 (M・T)
～椿桜俳句の里を訪ねて 西法寺・庚
申庵・一草庵・ロシア人墓地・足立
重信翁墓地～
- ・ 5月例会報告 (A・M)
～萬翠荘バラ展・院展～
- ・ 6月例会報告 出合い塾 (M・T)

～インドネシア大田リリスさん

- ・ 倉敷・くらしき・クラシキ・KURA
SHIKI (A・M)
- ・ キジバトの巣立ち (S・K)
- ・ さつき展 (Sa・K)
- ・ 楽しい!! わくわく*ドキドキ (R・D)
～高知アンパンマンミュージアム～
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第 67 号 (2009 年 9 月 28 日発行)

- ・ 7月例会報告～お弁当持参～ (S・K)
- ・ 9月例会報告 (M・T)
～中島を訪ねて・中島小学校～
- ・ くすのきで風を感じる (R・Y)
- ・ グリーンカーテン (Sa・K)
- ・ 夏の関西ぶらり旅 (A・M)
- ・ もう一度行ってみたソウル (T・H)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞より～東温市議会～
- ・ お知らせ 編集後記 (S・K)

第 68 号 (2009 年 12 月 21 日発行)

- ・ 10月例会報告 (T・H)
- ・ 11月例会報告 (T・H)
～市行政座談会～
- ・ 12月例会～「彩」で食事～ (T・H)
- ・ 生と死 (Sa・H)
- ・ 老後支度? (A・M)
- ・ 二度目のお産 (T・S)
- ・ 絵本で出会った人々 (M・T)
- ・ A先生と同級生 (S・K)
- ・ 京都御所特別公開 (R・D)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 福見山 (俵飛山福見寺) (S・M)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第 69 号 (2010 年 3 月 26 日発行)

- ・ 1月総会報告
～ヒラさんに再会～ (T・H)

- ・ 2月例会報告
～Sさん宅訪問～ (A・M)
- ・ 3月例会報告 (M・T)
～西条市愛媛民芸館と西条郷土博物館
- ・ 子どもが真ん中の幼稚園 (T・S)
- ・ 温かいふれ合い (Sa・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞掲載文
- ・ お知らせ

第70号 (2010年6月22日発行)

- ・ 4月例会報告
～梅檀で食事会～ (A・M)
- ・ 5月例会報告 (T・H)
- ・ 6月例会報告 (M・T)
～愛媛大学ミュージアムの見学～
- ・ 愛媛新聞～東温市汚職職員懲戒免職～
- ・ 弟の涙 (Sa・K)
- ・ 石鎚山 (S・M)
- ・ 34年ぶりに九州へ (A・M)
- ・ 入野松原とウミガメ (S・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ ごみ出前講座より (T・H)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第71号 (2010年9月24日発行)

- ・ 7月例会報告 (M・T)
～新居浜広瀬歴史記念館～
- ・ ジャコウアゲハの保護をアピール (K・K)
- ・ 「多自然川づくり研修会」に参加して
(A・M)
- ・ 9月例会報告 (T・H)
- ・ 例会直後のメールより (M・T) (T・S)
- ・ ジャコウアゲハ2010 (S・K)
- ・ 離乳期の食べ方あれこれ (T・S)
- ・ 安楽死 (Sa・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ 編集後記 (S・K)

第72号 (2010年12月21日発行)

- ・ 10・11・12月例会報告 (K・K)
～蝶のくる庭写真展に向けて打合せ
- ・ 古文書入門 講座 (R・D)
- ・ 愛媛新聞切り抜き
～相次ぐ職員の不祥事東温市～
- ・ 今年のもみじはよい紅葉 (A・M)
- ・ 松山市民劇場 (S・K)
- ・ 一人旅 (Sa・K)
- ・ 韓国へ (M・T)
- ・ 2010年ウォーキング元年 (A・M)
- ・ 雑感 from 綾 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第73号 (2011年3月31日発行)

- ・ 1月・2月・3月例会報告 (A・M)
～蝶のくる庭写真展に向けての実務～
- ・ ぐらしの学習会 会計報告蝶のくる庭
ミニパネル展 (S・K)
～中央公民館にて～
- ・ 自分の今後を考えた (M・T)
- ・ 東北関東大震災に思う (T・H)
- ・ 命 (Sa・K)
- ・ みかん農家の苦勞 (S・K)
- ・ 九州の美術館へ (A・M)
- ・ 自然の厳しさと共生 (S・M)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞掲載
～CO₂減益で食育推進
- ・ お知らせ

第74号 (2011年6月22日発行)

- ・ 4月例会報告
～中村秋紀氏をお迎えして～ (S・K)
- ・ 中村さんを囲んで (K・K)
- ・ ジャコウアゲハ2011・春 (S・K)
- ・ 5月例会報告 (A・M)
～シオンの家・こもれびで昼食・
上黒岩遺跡考古館～
- ・ 蝶の来る庭 ミニパネル展 その後
- ・ 川内公民館展示 (A・M)

- ・ 愛媛新聞切り抜き～東温・三か村泉～
- ・ 6月例会報告 (A・M)
～自然観察会に参加～
重信川・三ヶ村泉へ
- ・ リフォーム (R・D)
- ・ おからでショコラケーキ (M・T)
- ・ 賞味期限 (Sa・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 春の同居虫 (T・S)
- ・ パネル展 in 川内来場者の声
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第75号 (2011年9月28日発行)

- ・ 7月例会報告 (S・K)
～国交省松山河川国道事務所重信川出張所訪問～
- ・ 7～8月の活動 (S・K)
～「蝶のくる庭」パネル展～
- ・ 9月例会報告 (A・M)
～震災がれきについて意見交換～
- ・ 早朝サイクリング (S・K)
～かすみの森公園へ～
- ・ 市議会を傍聴して (S・M)
- ・ 震災地ボランティア (S・K)
～農業ハウスの泥の除去～
- ・ 行ってみたアメリカ西海岸 (T・H)
- ・ 睡眠 (M・T)
- ・ 幸ですか (Sa・K)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞掲載 室戸は「大地の公園」
- ・ お知らせ

第76号 (2011年12月22日発行)

- ・ 10月例会報告 (S・M)
～今治・小島の遺跡めぐりと島民対話
- ・ 11月例会報告 (T・H)
- ・ 12月例会報告 (A・M)
～三津の町並みぶらり歩き・鯛や～
- ・ 愛媛新聞より～東温市議長辞任へ～
- ・ 息吹 (S・K)

- ・ 往復書簡
- ・ 近頃思うこと (Sa・K)
- ・ 震災を詠む (道満光子)
- ・ 日本語教師になる (M・T)
- ・ 味噌づくりと理系のワタシ (T・S)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第77号 (2012年3月29日発行)

- ・ 1月例会報告・会計報告 (S・K)
- ・ 2月例会報告 (A・M)
～「東温市の自然」講演会～
- ・ 介護保険料値上げなぜ (Sa・K)
- ・ 骨折奮闘記+ちよこつと博多行き (車椅子編) (T・H)
- ・ 坂村真民記念館オープンに寄せて思うこと (S・M)
- ・ 東日本大震災から1年 (S・K)
- ・ 「雑感」にかえて～e-mailより～
(K・O) (S・K)
- ・ 新聞記事「高齢者の手首骨折増加」の紹介 (A・M)
- ・ 「塩 麴」ブーム??? (A・M)
- ・ 編集後記 愛媛新聞掲載 お知らせ
(S・K)

第78号 (2012年6月25日発行)

- ・ 4月例会報告 (T・H)
- ・ 介護保険出前講座 (S・K)
- ・ 「出前講座 介護保険について」に参加して (A・M)
- ・ 出前講座を受けて (Sa・K)
- ・ 6月例会報告 (A・M)
- ・ 市議会を傍聴しました (S・K)
- ・ ファースト タイム (Sa・K)
- ・ ジャコウアゲハ 2012—① (S・K)
- ・ 愛媛新聞切り抜き
～松山の施設博物館・楠さん～
- ・ ムカデに刺されたら (K・Y)
- ・ 見えないものが見える (T・S)

- ・ 雑感 (K・O)
- ・ お知らせ・編集後記 (T・H)

第79号 (2012年9月26日発行)

- ・ 9月例会報告 (A・M)
～西予市宇和町先哲記念館・民具館・
開明学校～
- ・ ジャコウアゲハ 2012-② (S・K)
- ・ 市議会を傍聴 (S・K)
- ・ 行ってみた敦煌
(ハルビンでの仕事を経て) (T・H)
- ・ パートナーが変わりました (Sa・K)
- ・ 真実は何かを知りたい (M・T)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞より
～宮崎・綾地域エコパークに～
- ・ お知らせ 編集後記 (S・K)

第80号 (2012年12月14日発行)

くらしの学習会 20周年

- ・ くらしの学習会主な活動記録
(2005.9～2012.12)
ジャコウアゲハの絵葉書8枚組作成
パネル展 (写真)
出会い塾
東温市・行政機関との関わり
文化・歴史・美術館を訪ねて
くらしの学習会綾支部
- ・ 会報『井戸端だより』もくじ一覧
51号～80号
- ・ 『井戸端だより80号』・・・20年の
あゆみを振り返って (林智子)
- ・ くらしの学習会との思い出 (S・M)
- ・ 私にとっての学習会 (K・K)
- ・ 『井戸端だより80号』によせて (A・M)
- ・ 20年を振り返って (Sa・K)
- ・ 専業主婦となり地域社会と
かかわった20年 (S・K)

井戸端だより 80号

- ・ 10月 11月 12月例会報告

- ・ 「井内の棚田」の風景を求めて (A・M)
- ・ この頃の自然な暮らし初体験 (T・S)
～だし醤油・梅干し・味噌づくり～
- ・ 父に会いたい (M・T)
- ・ イノシシと知恵比べ～中島より～ (K・Y)
- ・ 雑感 (K・O)
- ・ 愛媛新聞より
- ・ 最近の活動あれこれ (丸井美恵子)
- ・ 編集後記 (S・K)



・M)
)
)~

K・Y)

くらしの学習会
20年の歩みと共に



『井戸端だより 80 号』…20 年の歩みを振り返って

50 号記念号を出して早や 8 年、くらしの学習会が発足して満 20 歳を迎えました。50 号の時にも書きましたが、この会は、その当時人気の浄水器が重信の飲料水にも本当に必要なのかが井戸端会議の話題になったことがきっかけで、水について学び始めたことに端を発します。その時の主婦仲間 4 人で 1993 年 1 月に立ち上げました。

まず「水」から始まったわけですが、会として特定のテーマを決めず、会員のその時々で気になること、調べたいこと、やってみたいこと、行ってみたいところ、聞いてみたいことなど、皆で相談しながら決め、歩んできました。決して力むことなく、会員が年齢を重ねると共に、くらしの学習会も 1 年ずつ年を重ね、20 年歩み続けてきました。その間、特にすごいことをやったわけではありませんが、一度も途切れることなく年 4 回の『井戸端だより』を発行し続けてきたことは誇れるのではないのでしょうか。

『井戸端だより』を見ると、その時々政治、経済、社会問題がわかります。市民の思いがわかります。個々の会員の状況もわかります。そして、それらの一つ一つが過去にとどまらず、現在につながり、そして未来に示唆を与えているように思います。そんな思いを胸に、51 号から 80 号までの歩みを振り返ってみたいと思います。

50 号以降はジャコウアゲハ関連の記事が目につきます。ジャコウアゲハの絵ハガキを作成し（50 号記念号とともに会員には配付しましたが）、自然再生を謳って広く売り出しました。この方面の活動では、2008 年 7 月（63 号記事、以下号省略）、三ヶ村泉の絵ハガキでもお世話になった白形さん、東温市の鳥や動物の写真を撮っていたら奥川さんと一緒に、中央公民館ロビーで『残したい東温市の自然展』を開催しました。2011 年 3 月には「蝶の来る庭+自然再生」をテーマに会単独で町民会館ロビーを借りて、1 か月間ミニパネル展を開催、(73) さらにこのパネル展をパッケージにしてその後川内公民館、重信図書館で開催しました (74・75)。重信図書館では子供コーナーの展示だったので、多くの子供達にも見てもらえたのではないかと思います。偶然パネル展を見てくださった元緑化センターの所長には、後に講師をお願いし、お話をうかがう機会を持ちました (74)。その後、77・79 号では短歌を提供していただき、表紙を飾らせていただいています。

2005 年 51 号発行の 1 年前、旧重信町・川内町が合併して東温市となりました。就任 1 年の東温市長との懇談会も持ちました (54)。予め提出しておいた質問に丁寧に答えていただきました。ここで問題になったプラスチック製容器包装ごみ品質調査で D 判定を受けた東温市のプラごみですが、その後改善され A 判定を受けました (56)。ちなみに東温市長は先日、無風選挙の結果三期目がスタートしました。

市議会報告も折あるごとに記事にしています。これは、もともとある賛助会員からの要望で始めたことです。この会員は毎回会報についての感想を葉書に書いて送ってくれましたが、一昨年暮れ、闘病の末、亡くなりました。今は彼の奥さんが、活動会員になり、私たちによい刺激を与えてくれています。絆をつくづく感じます。議会

報告を通じて、これからも市民目線で市議会の活動に関心を持ち続けていきたいものです。

市の担当者に直接話が聞ける出前講座も会独自で開いたり（ゴミ行政 60 他）、他団体のものに参加させてもらったり（ごみ 70）しています。会員の高齢化に伴い、介護保険料が問題になりました。なぜ、東温市は高いのか。その理由を知るために、出前講座を申し込み、出前ならず市役所の会議室で、3名の役所担当者から話を聞くことができました（78）。介後の問題は、誰にでもいつかはやってくる問題です。今ある問題が、今後さらに顕在化し我々の生活を直撃するのか、今から注視したいと思います。

うちの古いワンボックスカーが遠出にはいつも活躍してくれました。愛媛県内外への見学ツアーです。

四国中央市の愛媛県紙産業研究センター見学（51）。このセンターは2009年から愛媛大学農学部研究科修士課程紙産業特別コースの拠点となっています。坂の上の雲ミュージアム・愚陀仏庵（58）内子・五十崎トンボの里（59）伊丹十三記念館（60）土佐・伊予しだれ桜巡り（62）久万高原町甲斐工房（64）砥部七折れ梅まつり（65）観椿会・西法寺薄墨桜・庚申庵・一草庵・ロシア人墓地（66）西条市のお雛様（69）愛大ミュージズ（70）新居浜広瀬歴史記念館（71）、久万高原町シオンの家（74）。中島へのツアー（67）、小島の要塞遺跡巡り（76）には特に強い印象を持ちました。西予市卯の町（79）へは次はぜひもっと多くの会員と共に松屋旅館でのお食事とセットで行ってみたいと思っています。今年9月に手放すつもりだった我が家の8人乗りワンボックスカーですが、あと1年車検まで維持することにしましたので、多くの会員をのせて愛媛県内外を走り回ってもらおうと思っています。三津の渡しや鯛やでの食事（76）、ごく最近行った東温市井内など我々の身近な風景・食が、最近本当に貴重だと思えるようになりました。愛媛再発見の旅です。また折々紹介していこうと思っています。

出会い塾では、私の教え子が何人も登場しています。イラン人留学生（52）、ポーランド人学生（53）、ここではポーランド語講座もありました。「ダイジョウブ」がポーランド語では「kiss me」の意味だったのには驚きました。このポーランド人の元留学生にはその1年半後ベルリンで学会があった時、ワルシャワまで出向き再会を果たしました（55）。つい先日メールでやりとりしましたが、今は歯科医で、大学の先生です。マダガスカル留学生（57）は2回目の登場。彼は内戦の国には帰らず、今も京都にいます。66号の出会い塾は東温市在住のインドネシア人の主婦でした。別の会で知り合った方で、大変魅力的な女性でした。日本人との結婚に至るまで、そして結婚してからのお姑さんとのお話しは感動的でした。しばらく出会い塾は開いていませんが、また機会を作りたいと思っています。

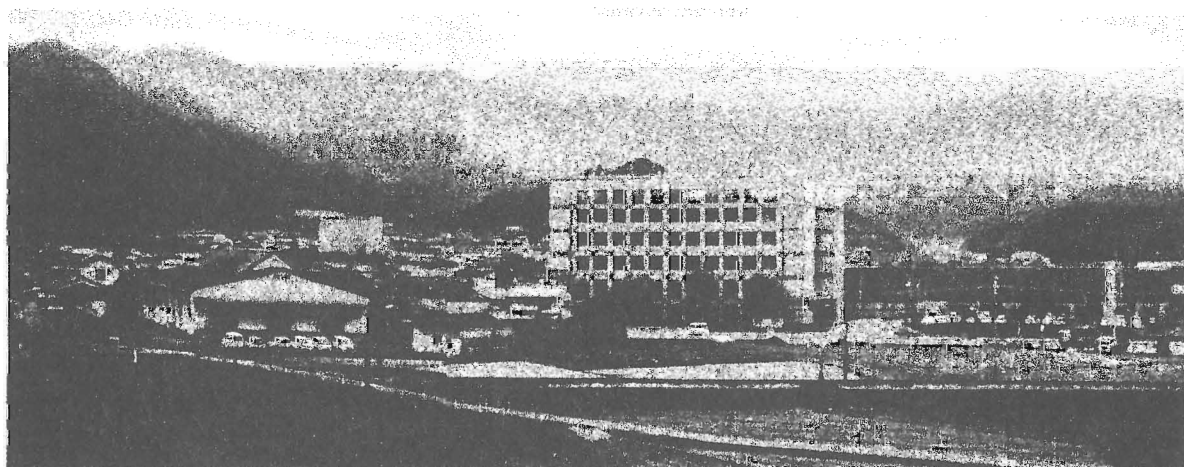
2年前に宮崎に引っ越してしまった活動会員がいます。引っ越した直後は、ぽっか

り穴が開いたようで本当に寂しくて仕方がありませんでしたが、今はこの会が全国に広がっていったのだと実感します。くらしの学習会綾支部誕生です。インターネット時代ですから、すぐ連絡がとれます。以前より彼女との絆が深まったような気がしています。『井戸端だより』では欠かすことのできない存在、ご存知「雑感」の筆者ですが、この雑感には熱烈な愛読者が数多くいます。本当にありがたいことです。

2011年3月11日の東日本大震災は、私たちにとっても大きな出来事でした。何が幸せか、どう生きるべきかなど考えさせられました。また、原発事故は私たちの原点を見つめ直す機会になりました。くらしの学習会の開設メンバーはもともと原発学習会のメンバーが主ですから。原発の問題は、最終処理の問題と切り離すことはできないと思います。進むも引き返すも問題です。しかし、進めばさらに多くの問題を重ねて行くことは確かです。どこが政権を握ろうが結論は明らかだと思います。

会の20年を振り返り、私自身還暦を迎えた今、新たな一步を歩み始めたいと思っています。自分自身、2年前には膝半月板損傷、今年初めには足首骨折と足の負傷が続きました。全く情けないです。だれでも年は確実にとっていくものですから、周りの人の助けも必要となってくるのは必然でしょうが、いくつになっても、自らも周りの人のために何かできる存在でありたいと思います。『井戸端だより』が読者の心に少しでも響くものなら、それに深く携わって、これからも挑戦的に発行し続けたいと思います。それを支えるのがくらしの学習会の活動ですね。今後ともよろしく願います。

林 智子



くらしの学習会との思い出

20年前のある日、5人の女性が酒だる村を訪ねて来られました。私は薪ストーブの上で焼き芋をして、匂いがして来たので、アッチチと焼き加減を見ていました。

トイレトペーパーを見せて「これ何ですか」と問われるので、何でそんなこと聞くのかと思いながら、単純に「トイレトペーパー」と答えました。「これは再生紙を使っているんです」とのことでした。ドイツではすでに普及しているとか。そして話している中に、私とはレベルの違う環境への思いを感じました。都会の人は遊びに来てゴミを置いて行くけど、それを片づけてきれいにするのは里山に住む者じゃないか、環境環境と言っても実行が伴わなければだめと思っていました。しかし、彼女らは明らかに違いました。議員になって間もない私は、彼女達の話に引き込まれていきました。彼女らは何とも頼りない町議が誕生したものだと思ったことでしょう。

それから20年、このくらしの学習会は水問題から始まって、くらしに関わる様々な問題を、その都度学習してきました。

重信町で21世紀の町政を託す町長・町議の選挙が行われる時には、2人の町長候補にくらしの学習会から質問状を送らせて頂きました。合併をひかえ、次期4年間は今までにも増して重要な問題がありました。町長候補の方々の考え方及び姿勢を知ることによって少しでも町民の皆さまの選挙に対する関心の向上につながればと言う思いからでした。この会は、主に重信町に住んでいる純粋な主婦グループですが生活の中で疑問に思ったことや、これはおかしい、変だなと社会のシステムを問うたりするとすぐ色メガネでみられるのかと情けなく思ったこともありました。

2001年(平成13年)には自然を学ぶきっかけにと、ワークブック「蝶のくる庭」を会員が出版しました。子ども達にステキな自然に触れさせてあげたいと言う思いが込められていました。それから10年経った今、熱心な会員さんによって蝶のくる庭は増えつつあります。食草や吸蜜植物を分けてあげ、庭に植えることで蝶が訪れる庭になり、蝶が媒体で観察仲間も増えたようです。

私がお手伝い出来たことは重信中学校へ「総合学習の働く人に学ぶ」でお話をさせて頂いた時に、「蝶のくる庭」を44名の生徒に1冊づつ手渡し「この本を持って外へ出て蝶やトンボを近くで見て、触って、疲れたら本を枕に寝転び大空を眺めなさい」と生き物への関心を持たせたことでしょうか。

◎奥重信行き

朝9時、酒だる村に集合、主婦集団で時間に制約があるので、デコボコ道を車で行く所まで行き、そこから山歩きをスタート。道案内の男性2人を先頭に、特別参加のドイツ人2人を加え、総勢12名のパーティとなりました。大変な道で先頭の男性2人が草を刈り、木を切って丸太2本の橋を作り、どうにか目的地に着きました。廃校跡・風呂の跡・炭釜跡・水車跡・など、昔、林業が盛んな頃の面影が残っていました。以前150人ほどの子ども達がここに通っていたと聞いて驚きました。

今、人間の力でどうする事もできない原発を作って、湯水のように使っていますが、水車で電力をおこし生活していた時代を思い、便利さと引き換えに我々はどれだけのものを失ったか天秤があつたら計ってみたいものです。

◎蜜ろうそく作り (酒だるにて)

山之内の老夫婦が来て下さって蜜ろう作りを教えて下さいました。

- ・湯をわかし、蜜を取ったアメのない巢を入れ、ガタガタわかしたら、ろうが浮く。
- ・竹の筒に穴をあけて、小さい木にくくったコモ糸を芯にしてろうを入れる。
- ・固まったら竹筒を割ってろうそくができる。沢山はとれないけれど昔はちょうちんに入れて夜道を歩いた。今の懐中電灯の役目をしたそうです。

◎出会い塾

子どもと大人とのおしゃべり会で、いろんな職業の人、外国人に逢わせて一人一人にしゃべらし、親の仕事だけでなく、いろんな仕事があることを幅広く知り、自分が何をやりたいかを見つけ出して欲しいとの思いでした。新聞記者・獣医さん・建築士・外国人留学生など多くの人との出会いの場を作り、いろんな価値観を知って欲しかったのです。子ども達だけではなく、私達もヒラさんにインド料理や、民族衣装を着せてもらって、一緒に楽しませてもらいました。

◎三ヶ村泉

今から 200 年も前に、水不足を解消するために、3つの村の人々によって作られ、灌漑用水・生活用水。また周囲に植えられたクヌギなどは、薪として利用され大切に守られてきました。

道後平野を流れる重信川。その周辺には多くの泉があります。水位低下により枯れてしまった泉。コンクリートにより整備された泉。今も昔ながらの姿で管理されている三ヶ村泉には、その清らかな水の流れのもとに、実にたくさんの小動物や植物が生育しており豊かな水辺の生態系を、今に残しています。

「くらしの学習会」と説明をつけて、三ヶ村泉の絵ハガキを作り、重信町の各小・中学校に配布しました。子ども達が私達の町にもこんな素晴らしい所があるのだと気づき、自然を尊び、自然と遊ぶ心を持ってくれることへの思いもありました。後に三ヶ村泉は重信八景に加えられました。

くらしの学習会も、今年（平成 24 年）で発足 20 年、井戸端だよりも 80 号を出すことになりました。井戸端だよりを読むと 20 年間の重信町、合併してからの東温市の動き、国のくらしに関わる様々な問題などが分ります。又自分の掲載文を読んでも、そのまま自分の歴史にもなります。転勤などにより活動会員は減りましたが、東京・宮崎県・高知県など県外からの掲載文も届き、全国に広がったと思えばよいでしょう。

余談になりますが、主人が亡くなった翌年、台風で24の養魚池に水がなくなり、大きな刺身用の魚や、天の魚を軽トラックや一輪車で運び土に埋めました。疲れと、主人が魚まで連れて行ってしまったのかと絶望していた時、くらしの学習会のHリーダーから電話があり「おすし・カラ揚げ・サラダが食べたい」と注文、やっとまともな食事をする事ができました。それも手づくりを持ってきて下さったのです。又道路の寸断された所からリックを背負って、息子さんを連れて来て魚をすくいあげて下さったNさん、これらの温かい心にふれて立ち上がる事ができたのです。

個性豊かで、その上、あたたかさを兼ね備えた女性達と共有の時間をもてた幸せに感謝します。

(S・M)



私にとっての学習会

20年前、ある家の台所で主婦が4-5人集まっていつものようにお茶を飲みながらおしゃべりをしていた。「〇〇さん、浄水器を買ったんだって。何十万もしたそうよ」、「へえー、浄水器って必要なの？このあたりの水は危ないの？」始まりはこんな会話だった。それから「水は健康に直接影響するじゃないの。調べてみようよ」となった。思いつくままに市役所水道課に行き、水の鑑定人を招き、地下水を湧水を生物環境を見に行った。今思うと若かったのかなとも思うが、メンバーの好奇心と行動力はかなりのものだった。

私達のこのような活動を見て「暮らしの学習会は主婦達の学校だな」と評した人もいた。その後、私自身はひよんなことから愛媛のいろいろな職業を紹介する本や、蝶の生態を観察するガイドブックを作る機会に恵まれたが、どちらもひとりではできなかった。暮らしの学習会の活動の経験が私の背中を押してくれた。もちろん家庭にいても視野を広く持ち社会参加している主婦は多くいる。が、私の場合は外にでる練習ができたと思っている。

現在はヘルパーとして働いているのであまり活動に参加できていないけれど、この間に会った人達とのつながりは私にとって大切なものとなっている。これから年をとって体力気力ともに衰えていくのだろうけれど、できるだけ好奇心と出会いを大切にしていきたいと思う。

(K・K)

『井戸端だより 80号』によせて

くらしの学習会に参加させて頂き、拙い文章を書かせてもらうようになって20年が経過したのだと思うと感慨深いものがあります。『井戸端だより 50号』から今回発行する80号迄の7年半の間もほとんど出席し、色々な体験や講演会、勉強会、県内外へも出かけ、見聞を広めさせていただきました。この間私自身の事として、私の両親・主人の両親を3年ほどの間で見送り、病気の治療をし、一人息子を社会に送り出し、夫婦二人だけの生活になって7年になろうとしています。『井戸端だより』の中には例会報告以外にもプライベートで出かけたことも載せて頂いていて、私の思い出が詰まっているので読み返すとその時期の事がよみがえってきます。例会時にはいつも写真を撮ってくれるメンバーがいて、その写真を上手に組み合わせた物をプリントアウトして下さるので、アルバムとして会報と共にファイルし大切にしています。

学習会で出かけた場所での食事処も数多くありますが、お気に入りには来島大橋が見渡せる海辺のレストラン。外食といえば麺類一辺倒だった主人が、このレストランにはドライブがてら年2~3回は一緒に出かけてくれるようになりました。ここは、2年前宮崎へ引っ越されたOさんが今治に居住していた頃に皆で食事をした場所で、私にとってはOさんの置き土産だと思い大切にしたいお店です。他にも松山市森松にあるカジュアルレストランや東温市田窪にある英国風のレストラン等も学習会の皆で昼食に訪れることの多い食事処で、学習会以外の友人とも食事に行っています。

私個人としてこの7年の間に「温泉・シネコンデビュー」し、夫婦で楽しんでいきます。ごく最近「バスツアーデビュー」をしました。京都・神戸一泊のツアーで、京都『大エルミタージュ美術館展』でアンリ・マティスの「赤い部屋」、神戸の『マウリッツハイス美術館展』でヨハネス・フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」を見たくて夫婦で参加しました。どちらの美術館も素晴らしい物でした。特に「真珠の首飾りの少女」の絵の部屋では一列に並びゆっくりと歩きながら鑑賞する状態でしたが、絵から離れても少女の視線を感じ、列から外れてから何度も角度を変えてじっくり鑑賞してきました。レンブラント・ファン・レインの作品も6点あり大満足の時間を過ごすことができました。

このツアーは美術展入館以外は自由時間の設定だったので、京都市内の観光も楽しみ夕食も京都駅周辺へ出かけ京料理を頂き夜の町を楽しみました。神戸も美術展を含め6時間自由時間があり晴天だったので、高さ132m・24階にある神戸市庁舎展望ロビーから神戸の一大パノラマを堪能し、神戸の中心部を見下ろす山の中腹にある神戸市立布引ハーブ園へ。ヨーロッパ調の雰囲気漂う素敵な場所で眺めも素晴らしいのですが、その場所に到達するために乗るロープウェイが私にとっては恐怖の時間だったのです。真新しいガラス張りの真っ赤で可愛く素敵なゴンドラなのですが、急勾配をグングン上っていくので、神戸港の景色の広がりや足元の山の深さが全て視覚に入ってきてゾーンとする恐怖感なのです。ですが、園内は本当に素敵で美しく管理さ

年
発
内
面
出
中
出
つ
つ
す。
見
に
、
2
私
こ
あ
手
で
ま
京
都
ウ
リ
を
く
飾
り
、
絵
鑑
賞
過
ご
楽
し
を
含
望
ロ
神
戸
い
の
だ
っ
、
勾
配
に
入
理
さ

れていて異空間を楽しむことができる場所でした。昼食を取り園内を散策し、また恐怖のロープウェイで下界に無事戻りました。閉所恐怖症高所恐怖症ではない方にはお勧めの場所だと思いますが、私はもう結構です。ツアー車内は静かでしたし、皆さん時間厳守で快適な「バスツアーデビュー」でした。

プライベートでの楽しみもくらしの学習会に楽しく参加できるのも健康が第一。充実した時間が続くことを願いつつ、これからもどうぞ宜しくお願い致します。

(A・M)

20年を振り返って

くらしの学習会、20周年おめでとうございます。口では、さらっと20年と言えるけど、世界には20年生きられない人がいっぱいいます。食べ物が無い人、病気の人、東日本の大震災大津波で亡くなられた人、第2次世界大戦で命を落とされた人々、この人々の事を思うと、生きるということは無駄に人生を送ることではないと思います。

くらしの学習会のメンバーの方々は、自然を愛し、環境問題に目を向け、見学したり実体験された事を文にまとめ、『井戸端だより』として80号迄休まず出し続けられました事に感謝致しております。

私は13年前、夫の病院通いに便利という事で、東温市に転居して来ました。20年前と言うと、私は58歳、姑が自立出来なくなったので52歳で退職し、姑を看ながら婦人会に入れて貰い、社会人としての生活をしていました。

今52歳の長男が32歳で、やっと結婚し夫婦でほっとした年でもありました。長女は27歳、広島で保母をしながら23歳で結婚して初孫が2歳でした。娘が共働きだったので、度々久万町へ連れて帰り子守りをしました。今は22歳になりフリーターで自立しています。娘の家に22年の間に、22歳の孫、高校2年の女の孫、中学2年の女の孫と3姉妹に恵まれました。長男の方は結婚も子どもも遅かったので、高校1年、中学1年、小学5年と3兄弟で、玄関には27cm以上の靴でいっぱいです。夫亡き後、6人の孫は私にとっては、何より励みになり癒しになり、助けて貰っています。

その間に、この世を去った人も6人います。平成4年に姑が96歳で亡くなりました。熱心なクリスチャンだったので、24年間一緒に暮らした私には大きな影響があり、一人で生きていく道を教えてくれた人でした。次に私の実母が99歳で平成20年に亡くなりました。7人の子どもに恵まれ、「貧乏人の子沢山」の諺にある通り大変な苦勞を掛けました。父親が早くに亡くなったので、子育てに、学費に生活費にと、ありとあらゆる仕事をし苦しさを乗り越えました。途中で小学校4年で弟が病死した

ので、6人の子がそれぞれに家を持ち、子どもが生まれる度に「ちょっと来て、ちょっと来て」とひっぱりだこ子守りに出産に、留守番にと良く助けてくれました。ひと言で母の生き様を表すと「老後の幸せは人に尽くしてあるもの」と言える様な生き方でした。途中で姉の夫が病死、妹の夫が交通事故で即死しました。しばらく平穏な生活でしたが弟が平成21年60歳で肺癌を患い3ヶ月の命であつたという間に苦しみながら死んで逝きました。遊び人でしたので、お金は遊ぶ為にあるものの様に使い、皆に迷惑を懸けました。

次は夫の死が私の人生を変えてくれました。2人で築き上げた家であり家庭であったが、「さだまさし」の歌のごとく亭主関白で、共働きながら、姑を介護し病弱の夫を支え、私の人生なんだったんだろうと思う時もありましたが、その中で私は弱い人への思いやりが育てられたと思います。夫の黒は黒、白は白の生き方は、パートナーである私は理解できたが、敵もいました。そんな中でも自分を忘れず、婦人会活動にグループ活動に励み、仕事中には出来なかった、パッチワークやパン焼きに習字、ピアノに投稿と一週間新しい事に挑戦し続けました。今、残っている作品を出して見ると、よく頑張ったなあ、その頃の生き生きした姿を豊かな暮らしだったなあと思いついています。

今は、思う様に体も動かず、身に付けたことを一つ一つ手放しています。目が悪くなり細かい仕事は出来なくなり、ピアノの前に座る事はなく物置になっています。唯一残っているのは、文章を書くことだけです。友人は「よく書くなあ」と言ってくれますが、私にとって神様から残してもらった自分へのごほうびだと思っています。20年前、仕事をやめて自分を励ます物はないだろうか考えた時、一人で誰にも相談せず紙とペンさえあれば、自分の思いがいくらでも表現できる嬉しさ、自分で自分を支えた20年でした。

新老人の会長であられる日野原先生が、毎月出される会報に、『101歳の誕生日に「110歳を目指して頑張ります」又、今迄沢山の方から受け取ったものばかりだったので、これからは恩恵を返すことに専念します』と記されていました。先生の生き方に驚きというよりは感動しました。

私はあと10年を目標に生きようと思います。どんな終わりになるか誰にも分かりませんが、その日、その時に自分に出来ることを頑張り、それでも出来なくなった時は、一つ一つ神様に返して、憾みも、嫉妬もなく、世話になる人に「ありがとう」が素直に言える可愛いおばあちゃんになりたいと思っています。

最後にくらしの学習会に入れてもらって、皆さんの前向きな生き方と行動力、世の中の動きに常に目を向ける話し合いは、私にとって大切な勉強になっています。

(Sa・K)

専業主婦となり地域社会とかがわった 20 年

くらしの学習会に入会して 12 年になる。会員や子どもづれの家族 20 名と共に、当時の緑化センターで行われた秋のお散歩会への参加が、くらしの学習会との出会いだった。

娘が社会人になったのを期に、13 年間パート勤務をしていた会社を退職し専業主婦となった。さて、何をしよう。雇用保険を貰っていた期間は専ら図書館通い。そこで、数年前に発行された『生活文化女性塾活動報告書』の小冊子を見つけた。重信町の女性 20 名の名前が連なり、1 年間の活動が記されていた。「地域における男女の共同参画社会づくりを着実に進める人材の育成を図る」とその目的を示し、先進地視察研修に湯布院を訪れていた。重信町には素晴らしい女性団体があると、その仲間に入れて貰ったのが退職した翌年の 1994 年。そこに、くらしの学習会のメンバーが数人いた。女性塾とは視点のちがう女性の集まりで、月 1 回の例会を持ち、自分たちで話し合い計画を立て実行し、3 カ月に 1 度発行する会報『井戸端だより』で報告する。生活に密着している政治の話や、世の中の出来事や日常生活を通して日頃感じていることなど文章にして報告する。そんな会に魅力を感じた。

入会して 5 年足らずの時、『井戸端だより第 50 号』記念号編集の大役が回ってきた。この作業をする中で 12 年間の充実した活動の内容、また家族を大切にし、料理上手（年に何回かの一品持ち寄りの例会で披露する）、個性的で自分の考えを持った素晴らしい女性の集まりだと改めて確信し、仲間に入れて貰えたことに感謝した。

20 数年前にさかのぼってみる。平成元年に消費税が導入され、経理の仕事をしていた当時事務処理が複雑になったことを思い出す。この頃から日本の景気が下降気味になった。それまでは、私の勤めていた会社は 5 ヶ年計画で社屋の新築・事業所の拡大を打ち出し、福利・厚生部門も充実していた。高知に本社があり四国各県の事業所から約 300 人の従業員が、関西方面や東京へ集合する年 1 回の国内研修旅行をはじめヨーロッパ・アメリカ西海岸方面へ 1 週間の海外研修もあった。私も正社員でないにも拘わらず、「日本が世界に貢献出来る事」の論文審査に合格し、10 名の中に選ばれ社長を団長とするアメリカ西海岸研修に参加することができた。はじめての海外旅行だった。50 歳の時である。

ロサンゼルス、サンフランシスコの大型スーパーの流通部門の見学をした。ディズニーランド、ハリウッドなどの観光も楽しかった。この当時は、日本は飛ぶ鳥を落とす勢い、アメリカには学ぶものはないなどと豪語しマンハッタンのビルを日本企業が買っていた時代でもあった。

帰国後、当時事業所長の秘書をしていた関係で『アメリカ研修の報告書』作りを任された。その頃会社にコンピューターが導入され、書類は全てワープロでないと受け付けないという会社の方針で（まだパソコンは普及していなかった）必死でマニュアル本を読んで勉強した。これが今も続いているパソコンを使う事ができる原点になっ

ている。この頃は、周りはいつも前を向き、活気溢れる時代、そして努力さえすれば報われる時代だった。

さて、50歳で退職したものの、エネルギーはまだ十分あった。「女性塾」「くらしの学習会」「アカシアの会」「女性センター」と地域と繋がりを深め、それぞれのグループ活動を通して、世の中の出来ごとに関心を持ち続けてきた。

この20年間は、小・中学校の同級会の幹事として11回の集りを企画し故郷との思いを繋いできた。何の利害もない幼友達、特に男の子は田畑を走り回り悪いことをした幼い頃を誇りに思い自慢する、そんな話が故郷のあんな場所こんな場所を思い起こし爆笑する。18歳で故郷を離れ仕事に大学にとそれぞれの道を選び、それぞれの地で家族を作り今がある。私達の年代は日本の高度経済成長を支えたという自負を持っている。そんな人たちと顔を合わせ声を聞き、活力を得て、また会いたい思いにかられ、必ず次会の開催地を決める。宴会の最期は校歌を合唱。

また、10数名の同級生のメル友との交信でも絆を繋いでいる。週2~3回山登りをする北陸在住の友人からは四季折々の山の写真が届く。フィリピンの友からは、スキューバダイビングの様子が、また、夫婦や友人と行ってきた海外旅行の様子を、キャンピングカーで日本中を回っている友人からも、健康のため自転車で旧蹟めぐりをしている友からも、家の庭の折々の花を・・・と、毎日のように楽しい便りが届く。パソコンが普及し情報社会になった恩恵を楽しんでいる。

また、趣味として続けていた書道。塾の先生が急逝し、1つの教室を任されて8年半、筆を持つ楽しさを数人と共有している。

来年は6巡目の年女、年齢を重ねると共に行動範囲が制限されるため、近くで楽しみを見つけようと、数年前から蝶のくる庭づくりをはじめた。春先から秋口に飛ぶ数種類の蝶の仲間にジャコウアゲハが加わった。食草のウマノスズクサを育てるのは容易ではない。

この団地の住民になって32年、時代の移り変わりと共に少子高齢化が進んでいる。20年来団地の入り口で花を育てている。せめて、この花に沢山の蝶が集まって来て欲しい。

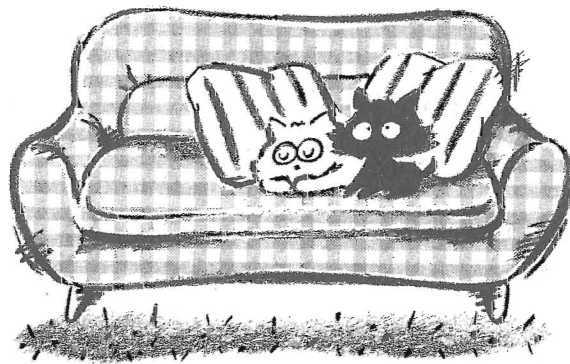
花が咲き乱れジャコウアゲハが飛び交う町を思い描いている。



(S・K)

ぼ
し
ル
思
し
こ
地
っ
ら
を
ス
キ
を
く。

井戸端だより
第80号



10月例会報告 10/3

会員4名が集まり、80号記念誌等について、案を一応まとめる。

記念誌は、50号同様発行する。内容は、51号から80号までの会報目次まとめ。

活動風景のカラー写真入り+通常の会報部分 活動会員、会に深くかかわってくれた会員には、それぞれ内容は自由で原稿を書いて貰う。

その他、泉、蝶の写真付きのカレンダーを作る（A4 6か月分2枚仕様とする）。

原稿締め切りは11月25日。12初め発行予定

11月6日（火）午後1時から 林宅の次会例会でさらに内容をつめる。

11月例会報告 11/6

会員6名が集まり、80号記念誌等について、さらに詳細を決める。

記念誌は、ちょうど活動開始から20年になるので、表紙に井戸端だより20年記念号である旨の文言を入れる。51号の発行年月今回の80号発行年月を入れる

*カレンダー： 縦型・横型の試作品を検討、横型案に決定し、一部修正をする。

*冊子表紙の試作品の検討： 次回までに更に検討する

*印刷費の見積もり： A3冊子（カラー版30部 白黒版100部）

カラー版カレンダー100部で5万円弱ぐらい。活動会員+αのみカラー版 賛助会員は白黒版とする。20年記念なので、すべてカラー版でも、という考えもあり再度検討する。（見積もりをとる）

12月例会報告 12/4. 12/11

12月4日（火）午前10時～ 林宅 校正

12月11日（火）午前10時～ 川内公民館 文字部分の印刷と製本準備⇒製本に回す

「井内の棚田」の風景を求めて

9月26日（水）以前から訪れてみたい場所「井内の棚田」の風景を求めてメンバー4名で出かけました。この日午前10時から川内公民館で『井戸端だより79号』の印刷をし、発送作業を行ってから、井内地区へ。

雲一つ無い秋空の下、県道210号線を走ること約20分、既にほとんどの棚田は稲刈りが終わり農作業をする人の姿は無く、山の自然・道路際に咲くコスモスとひんやりとした空気が私たちを迎えてくれました。『井戸端だより77号』1月例会報告にも書かれてある白形さんの「井内の棚田」の写真や、テレビや新聞記事などで見た赤そばの花咲く風景にずっと出会ってみたいだったので、今回訪れる事ができ、嬉しい日となりました。

昼食を予約していた農家レストランへ。春は桜、4月中旬～5月上旬には20余年にわたり育てて来た棚田20畝に約60種3000本のぼたん、6月には約40種の山アジサイ、夏は棚田の瑞々しい景色、秋の赤そばの花や紅葉、冬には冬枯れの風景……いつ来ても楽しめる所です。四季折々の花々が至る所にあり、この日も入り口で赤萩の花が出迎えてくれました。通されたのは茅葺き屋根の古民家で囲炉裏を囲んでの食事となりました。炭火を前に熱さを感じながらも、室内全体の空気や外からの山のひんやりとした空気が流れてきて心地好く感じられます。炭の香りをまといじっくり焼けた歯応えのある「地鶏の炭火焼き」をハーブしながら頬張り味わった後、ご主人が打った自家栽培の赤そば（品種は高嶺ルビー、こしが強く喉越しの良い健康食品）の冷たい蕎麦が先ほどの熱さを押さえてくれました（この日私たちが頂いた蕎麦が去年収穫した最後の赤そばで、新蕎麦の時期12月までは提供できないそうなので本当にラッキーでした）お店オリジナルのデザートを頂き、大満足の昼食でした。別棟の売店兼バーベキューコーナーでオリジナル商品（ブルーベリーコンフィチュール・どぶろくジャム・もち麦スコーン等）をおみやげに購入。少し上った場所にある赤そばの棚田をご主人が案内して下さる事に。

ご主人の話では、この地は肉牛を育てる農家が多かったが牛肉の自由化によって生計が成り立たなくなり離農する家が増えたそうですが、東温市が「国のどぶろく特区」認定を受け、美味しい棚田米と清水を原料に丹精込めて作った「どぶろく」や県内でも珍しい赤そばを栽培し手打ち蕎麦を提供し、地域の活性化を繋げていく元気な農家の人々の熱意がこの地に人を呼び込み、広く知られる様になったのでしょうか。赤蕎麦についても尋ねてみました。赤蕎麦の実普通の蕎麦の実よりも小さい為、蕎麦粉にできる量は少なく、1kgの蕎麦の実から500g程度しか取れず、その一番粉しか提供している蕎麦には使わないそうです。先ほどの頂いたこだわりの蕎麦は、香りがほんのり感じられしっかりと歯応えで美味しかったのですが、新蕎麦時期の物も頂いてみたい衝動に駆られてしまいました。既に棚田にはほんのりピンクの花が咲いていましたが、棚田一面に赤い花を咲かせるのは7～10日後になるそうです。その頃にもう一度訪れたいと思いました。井内までの途中に能舞台を作り活動している「清里家」にも興味があり、立ち寄りしましたが残念ながらお留守でした。

その後、骨折のため入院中のMさんのお見舞いに病院へ。2階の病室へ行く階段からMさんらしき声が。入院患者さんのためのサロンスペースにMさん発見。麻の葉柄のピンクの作務衣風の室内着がよく似合っていて元気そうで、杖をついてはいますがしっかりした足取りで安心しました。Mさんの病室で写真を撮ったり、退院後についての話しなどしていると親戚Oさんも来られて賑やかな時間となりました。（他室の患者さんにご迷惑をかけたかも？）元気な様子に安堵した私達は4時に用事のあるTさんと一緒に病室を後にし、それぞれ帰路につきました。

後日、10月6日、井内は初めての主人と赤そばの花を見に井内を訪れました。この日もいい天気、ひんやりとした空気とのどかな景色を主人と共に満喫してきました。

赤そばの花はルビー色に色付き風に揺れていました。

(A・M)

この頃の自然な暮らし初体験

～だし醤油、梅干し、味噌づくり～

日々、人工物の害に悩まされているアレルギー&アトピー体質の私は、自然な暮らしに居心地の良さを感じている。有機栽培の玄米や野菜、添加物のない食材を選ぶとともに、衣類は綿や羊毛などの天然繊維を中心に、住まいは木造で、なんとか落ち着いて暮らせている。ストレスも体には悪いから、多少不義理をしてもものんびりペースで過ごしている。

そんな中で始めた保存食づくりは少しずつ種類が増えてきた。とはいえ、長い間、梅シロップに梅酒、各種のジャム、干し柿など手軽なものがほとんどであった。そこに、この頃はだし醤油と梅干し、味噌が加わった。

だし醤油づくりは、鯉節を削ることから始まる。我が家はおいしさ優先で、鯉節削り器を使っている。鯉節削りは私の子どもの頃の朝の仕事でもあったから、懐かしさもあって、音も楽しみながらの作業である。削り節ができれば、鍋に入れ、昆布、干し椎茸、醤油、みりん、酒を加えてしばらくおき、煮込むだけ。このだし醤油があれば、夏場の素麺はいつでもオツケーだし、煮物も汁物も大体間に合う。まさに主婦の見方ともいうべきものなのである。その上、だしを取った後の昆布、干し椎茸、鯉節を刻んで水を加えて煮込めば、おいしい佃煮になるというオマケつきだ。

昔ながらの方法だから、今さら何を一とお感じになる方も多いかもかもしれないけれど、私たちの世代ではだしはパックに入った顆粒が主流で、何からできているか実感はないという人が少なくない。私自身も、長いことそう思って暮らしてきて、ある時ふと居心地の悪さを感じて変わってきた。多くの人が仲間になってくれたらいいと思う。

梅干しは今年初めてつくってみた。本を見ながらだったのに、間抜けな私は赤紫蘇を入れるタイミングを間違えて白梅干しになってしまった。けれども、これが怪我の功名でおいしかった。今まで梅干しはあまり好きじゃないと思っていたのは、赤紫蘇が苦手だったからだと気づかされた。でも、赤紫蘇ジュースは好きだから、梅と赤紫蘇の組み合わせが私に合わないのかもしれない。ともかく、これほど梅の使用頻度が高いのだから庭に梅の木を植えよう。早くしないと梅の実がならないうちに死んでしまう！と一人こっそり焦っている。

そして、味噌づくりは1年になった。冷蔵庫に入る分だけ少しずつ仕込むから、これまでに4回仕込んだ。4度目の味噌がそろそろできる。いずれも大豆と米麴の大豆味噌で、関東育ちの夫と私の口には合うのだけれど、愛媛の麦味噌育ちの子どもたちには今ひとつのようだ。そんなわけで、今月は麦味噌づくりを試みることにした。おいしくなあれと祈りながら待つ時間がたまらなく愛しい。

次は何をつくろうか。しばらく休んでいるぬか漬けを再開したいし、キムチもつくってみたい。そうそう、保存食ではないけれど、餡づくりにも慣れてきたから饅頭もいいし、調味料のソースやケチャップもつくってみたい。マヨネーズを日々手づくりするのもいい。おいしいものは笑顔につながる。みんな、笑顔になあれ！ (T・S)

父に会いたい

「振り返ってみれば、人生は短い」亡くなる数日前に、父が私に告げた言葉です。最近、本当にそうだと感じる時があります。夫の年齢も、父が亡くなった年までに10年を切り、やはり、父は若かったのだと改めて感じさせられます。私も、後13年で、父が亡くなった年になります。

重い病だとわかった1年は、毎日、父に会い、話し、母の作ったご飯を食べる父を見ながら、時には笑って過ごしました。亡くなった後は、父の最期の言葉に支えられて、私は、前だけを見ながら歩いてこられました。「思い残すことは何もない。精一杯の事はしてきた。いい人生だった」そう言い遺しました。近所の人が、葬儀の数日後に、「お父さんは本当に優しい人だったよ」と言ってくれましたが、そういう風に思っていてくれたのかと初めてわかりました。父の葬儀の後、知らなかったと言って、お悔やみにきて頂いた父の同級生を、先日、市内の病院でみかけました。父の遺影の前で号泣してくれたお顔に見覚えがあり、「～の娘です」と言って、少し、話しましたが、車いすに座ったご様子から、体調も良くないようでした。後日、母から、「声をかけてくれて嬉しかったそうよ」と聞いて、良かったのだろうかと不安でしたが、安心しました。

私は、子供のころは、そんなに、父の愛情を感じてはいませんでした。むしろ、怖かったような気がします。結婚し、子供を持ち、家族が増えるにつれて、何も不安がない子ども時代だったと感じずにはいられないようになりました。贅沢はできない生活でも、安心感を持って生活をしていたように思います。

父が亡くなって、13年が過ぎました。いない生活が当たり前になり、一人で暮らす母の家に出向く回数が少なくなっていますが、母は気ままな一人暮らしを愉しんでいるようです。時には体調を崩しますが、父が遺した「頼むぞ」という責任は、満点ではありませんが、まあまあ及第点ではないでしょうか。

「でも、お父さん。今の私は、お父さんに会いたい。寂しいときがある。会って、話したい。私の気持ちを聞いてもらいたい。亡くなった人が夢に出てくるって聞いたことがあるけど、一度もきてくれないね。お父さんが行った大連から来ている中国人に、今年は何人も会ったよ。中国人は優しかったと言っていたよね。感謝の気持ちを、ちゃんと、私が伝えるからね。それから、亡くなった年に、しまなみ海道に行ったよね。向こうで友達に話すから見ておきたいって言って。今ね、私の家の周りが大規模な宅地開発をしているよ。町が変わるけど、愛大病院ができたときのように発展していくといいね。どうなるのかわからないけど、私も魅力的な街になるように協力したいと思っている。どう変わったのか、今度、会った時に話すね」

(M・T)

イノシシと知恵比べ ～中島より～

今年は、みかんが裏年でとても少なく、その上、島は雨が極端に少なく、とても小さいです。松山に雨が降っても、こちらではポツリともなし、台風が近づいても雨量は10ミリ程度。雨が少ない方が味は良いのですが、それにしても少なすぎ・・・ここは砂漠かしらと嘆いていました。10月に2回ほど、20ミリ程度の雨が降り、やっぱりまだお天道様は見捨ててなかったんだと、ホッと一安心したところです。温州みかんは、早生は今年の半分くらいはあるかと思いますが、中生、普通温州は見事にありません。それ以降の品種は、少ないですがなっています。

中島はイノシシが増えて、大変な被害が出ています。日中に、県道を堂々と歩いたり、5、6頭の群れで作物を荒らしたりしています。色々対策をしていますが、増える一方・・・イノシシにとって、島は天国らしいです。

愛大の先生が赤外線カメラを設置して、生態調査をしてくれていますが、こんなに人間を恐れないイノシシは初めてらしいです。猟師や猟犬に追われることもなく、罟や檻で捕まえても、増える方が多い。イノシシの出産についても、興味深いお話を聞きました。イノシシは普通、年に一度、春に出産するそうです。お乳が8個あり、最大8頭産めるのですが、大体5～6頭産んで、自然淘汰され、2頭ぐらいが生き残るのが普通だそうです。ウリ坊は、お母さんのおっぱいが決まっていて、授乳しているおっぱいは大きいので、その様子から育てているウリ坊の数がわかるのです。授乳中に、もし、ウリ坊が捕まえられたり、いなくなったりすると、お乳が張った状態なので、またすぐに妊娠することがあるそうです。

ところが、中島の場合、4～5頭連れていく様子が赤外線カメラに多く映っています。これは、子育ての環境が良くて、ほとんど、元気に育っていることを示しています。温暖で、餌もあり、外敵もいない、イノシシにとって最高の場所かも知れません。年中ウリ坊を見るような気がします。10月初めの朝、我が家の近くでウリ坊を4頭捕まえました。捕まえたのは良いのですが、またすぐ子どもを産むかと思うと、ぞっとします。捕まえるよりも、増える方が多いので深刻です。

イノシシは、山の方の安全な場所で、土を平らにして、土の上に草などを敷いて出産するそうです。愛大の先生から、その話を聞いて、「あれは、それだったのか！」と思ひ当たる人がたくさんいました。我が家の伊予かん畑にもありました。それが結構、里に近いのです。もう一つ興味深いのが、赤ちゃんのメスが、1年たって出産できるようになると自分が生まれた場所の近くで出産するそうです。だんだんとイノシシが増えて近づいてくるのをヒシヒシと感じます。被害がますますひどくなり、皆が色々考え、様々な対策をしていますがイノシシと人間の知恵比べです。人が集まると、イノシシ談議。人間も、イノシシに負けないで、生きていく力を発揮したいものです。いつも、異常気象やら、鳥獣害やら嘆いてばかりですが、やっぱりそれに負けずきちんと仕事をするのが大事ですね。反省しきりです。 (K・Y)

雑感

我家の庭でも、立冬当日に、冬の到来を告げると言われている、ツワブキの花が咲き始めました。

あれだけ群れを成して飛んでいたトンボ達の姿もめっきり少なくなりました。トンボたちのお蔭で、この夏、殆ど蚊に刺されることがありませんでした。

今は、小春日和の昼下がり、小さな赤トンボが池の傍の石の上で日向ぼっこをしている姿を、たまに見かける位です。

池ではゲンゴロウが数を増し、数少ないヤゴを襲っていました。悲しい光景ですが自然の摂理なのでしょう。メダカたちにも被害が出ているのかもしれませんが、メダカたちは次々に順調に増えています。

華やかなアゲハチョウたちに代わって、夏の頃より色濃くなったツマグロヒョウモンやタテハモドキがツワブキの花に集っています。たまに、窓辺にとまっているタテハモドキはお面をかぶった小人が覗いている様に見えて、思わず吹き出してしまいます。

イヌザンショウやカラスザンショウの枝に無数に居たナミアゲハの幼虫たちは、葉を食べ尽くすと姿を消してしまいました。何処かで無事に蛹になってくれていると良いのですが・・・。鎖模様の髪飾りに白いハート柄ソックスの愛嬌のある可愛さは、見るのが楽しみで時間が経つのを忘れました。もう少しよく見ようと思って枝を動かすと、怒って頭にオレンジ色のリボンを出して睨んでいました。

スイカズラやテイカカズラの実は既に鳥たちに食べ尽くされ、今は椿の濃い緑の葉陰でサネカズラの紅い実がひととき鮮やかで目を惹きます。

葉を落とした木々ではモズが早糞作りに懸命です。真剣に方向を見定めて獲物を枝先に刺し、別の枝で嘴を拭っている姿は、いかにも満足そうです。

暫く前から毎日やって来るようになったジョウビタキは何故か車が大好きで、何時もサイドミラーややねにとまり、遂には窓枠から車内を覗いています。いったい何に興味魅かれたのでしょうか。

裏の木立からは夏にも増して様々な鳥たちの囀りが聞こえてきます。夏より種類も増え、囀り方も複雑で、鋭い声が混じるようになりました。

何時までも、私の「あなたは誰？」は続きます。

日毎に寒さが増し、毎日のように霜注意報が出される様になった頃、我が家は綾の住人になって丁度2年になりました。3年目の初日は地区の文化祭でした。イチョウの大木から作った俎板を手に入れました。地区の公民館の庭に有ったイチョウです。落ち葉が近隣に迷惑をかけるということで今年切り倒されました。記念に大切にしようと思っています。

本格的な冬も間近な11月14日夕方の党首討論で野田総理は16日に衆議院の解散を言及し、その後、12月4日公示、12月16日総選挙、と決定されました。かねてより解散を求めている野党に対して、総理が夏の盛りの8月8日、谷垣前自民党総裁との党首討論で「近いうちに国民に信を問う」と発言してから100日、国会は完全に機能不全に陥ってしまいました。国会も開かれず、国を挙げて、ただただ、「近いうちに、とは何時なのか」に終始してしまった3か月間でした。哀しくなりました。即刻やらなくてはならないことが山積しているのに、です。東日本大震災から1年8ヶ月も経った今も、復興予算の流用が報じられ、復旧すら儘ならず、未だ避難所暮らしを余儀なくされている方もいらっしゃるのです。福島第一原発による人災に限っても、〈事故現場での作業従事者の被曝線量隠し〉、〈昨年12月16日に早すぎる収束宣言を出したばかりに、それ以降の福島第一原発での作業員は「緊急作業従事者」とは認められないことになり、癌の無料検診の対象者から除外〉、〈溜まり続ける除染後の特定廃棄物〉、〈まだまだ安定しているとは言い難い福島第一原発〉、などの状況を聞くにつけても、総選挙に掛ける財源も時間も惜しいと思えてなりません。揚げ足取りをする暇があったら党利党略を超えて、お互い知恵を絞るべきです。真の政治家であるならば、そうすべきでしょう。

おまけに、最高裁大法廷は2009年8月の衆院選、2010年7月の参院選ともに、一票の格差が大きすぎるとして違憲判決を出しています。今回の選挙では一応議員数を5議席減らすだけで、元の定数配分のまま、お茶を濁そうとしています。区割り作業には3ヶ月ほど必要で今回の選挙には間に合わないというのが、その理由です。空転していた3ヶ月。大切な私達の1票に託した想いは、置き去りにされたまま、選挙戦に突入してしまいました。14もの政党が名乗りを挙げています。既成政党への失望と不信の表れでしょうか。

私は、①これからの原発との向き合い方、②憲法9条の堅持、③偏り過ぎている沖縄の負担、④社会保障と税の在り方、⑤自然の一員として、人間らしく生きることが出来る社会の在り方、についての各政党の真剣さを知りたいと思っています。

① **原発問題**：停止していても危険が無いとは言えないから、安全基準を高めた上で、既存の原発は再稼働して使い続けた方が良い、という意見もあります。しかし、原発を使い続けるということは未だ最終処分の方法が確立していない、とてつもなく危険性の高い、高レベル放射性廃棄物を産み出し続けることです。高レベル放射性廃棄物は半減期を繰り返しながら安全な状態になるのに100000年も掛かると言われています。フィンランドのオンカロは世界で唯一最終処分場として作られた施設です。そのオンカロでさえ問題が有る、とされています。100000年があまりにも長い年月なので、何が起こるか想定できないから、とのこと。1000000年、想像もつきません。ちなみに、今から1000000年前は中期旧石器時代、ネアンデルタール人の世界でした。そう考えると、私達は、原発を手放す決断をするべきだと思わざるを得ません。科学の粋を傾注して高レベル放射性廃棄物の最終処分の方法を考えなくてはならないと考えます。既に、日本国内の中間貯蔵施設は限界に近づいています。

原発はクリーンで安価である、というのは本当なのでしょうか。今回の事故では甚大な放射能汚染を引き起こしましたし、膨大な税が投入されてもなお終息出来ていません。私には、クリーンでも、安価でもないと思えません。再稼働させてしまった大飯原発は即刻停止させ、停止中の原発が暴走しない為の安全基準を高め、高レベル放射性廃棄物の最終処分の方法が確立した後に原発の利用を考えても遅くないと考えます。勿論、原発を輸出することなどは厳に慎むべきです。

②**憲法9条の堅持**：現在、世界中で争いが起きています。それぞれの正義がぶつかることもあるでしょうし、後ろ盾となって支援している国の思惑が絡んでいることもあるでしょう。しかし、武力による制圧は真の解決にはなりません。恨みが残るだけです。日本は、これからも絶対に武力行使を行う国になってはならないと考えますし、他国の武力に頼るべきではないとも考えます。武力を持たない、使わない、日本なら、世界中の国が平和裏に共存するための役割を担うことが出来ると信じたいのです。

オランダ南部のバールレ・ナッサウ村には22ものベルギーの飛び地（バールレ・ヘルトフ村）があり、建物が両国をまたぐ場合も珍しくないと言います。この村も第一次、第二次、両大戦以前は、国境をめぐる長く、悲しい歴史があり、特に両大戦中は悲惨を極めたと言います。しかし、両大戦後、愚かさに気づき、緩やかで平和な国境に変貌させたそうです。その結果、国境防衛に費やしていた膨大な財源を社会保障に振り向けたことで、福祉社会の礎石を築くことが出来たそうです。素晴らしいことです。

世界中から国防費が無駄で、不要になる、そんな日を夢見ています。

③**偏り過ぎている沖縄の負担**：「最低でも県外」との言葉から3年余。沖縄の負担は減ることはなく、オスプレイまで配備されました。今まで、同じ日本国民でありながら、どこか遠くのこと、として真剣に考えることが少なかった私たち自身も反省しなければなりません。オスプレイが配備され、日本中の空で訓練飛行されることになったことは、基地問題を我が事として考えるきっかけになるかもしれません。

米兵による事件も後を絶ちません。犯罪は憎むべきことですが、加害者である米兵もまた、“戦争”の被害者であるとも言えると思うのです。命のやり取りが日常的な戦場に出向く、何とか命長らえて帰還した、そんな人の精神状態は、私達には測り知れないものが有るに違いありません。

世界中から基地が無くなる日を切望します。

④**社会保障と税の在り方**：社会保障と税を一体で改革することには賛成です。しかし、まだまだ踏み込む余地は有りそうです。

年金は現役世代が高齢者を支えるもの、として理解していましたが、年金制度を抜本的に改革し、豊かな高齢者に対する減額は、今まで保険料を払った人に申し訳ない、等の意見を耳にすると、“？”とってしまいます。保険料を払わない、のではなく払えなかった人まで無年金になり、厚生年金や、共済年金、企業年金などは現役時代の所得によって年金受給額が変わる、という制度そのものが格差を固定化することに繋がると思います。また、悲しいことですが、生活保護費が、給与や年金受給額より

多い場合もあるという歪みから、不正に生活保護費を受け取る人も居ると聞きます。老いても豊かな人は居ますし、若くても困窮している人は居ます。年金と生活保護との枠組みを外して生活保障費として一体化できないものでしょうか。高齢者総てが年金を必要としているとは思えません。原資は保険料ではなく、税で賄うのが妥当と考えます。弱い立場になることを恐れずに生活できる安心感こそが必要だと思うのです。

⑤**自然の一員として、人間らしく生きていくことが出来る社会**：人間は自然の一部にしか過ぎない、こんな当たり前のことを忘れてしまっています。人間の為なら、何をしていても良い、その結果、その時、その時の経済事情によって、乱獲、放置が繰り返され、多くの自然が破壊されて来ました。遊びの為にさえ、ためらいもなく木々を切り倒し、山を削り、海岸の形まで変えてしまします。その一方で、絶滅が危惧されると、徹底的な保護活動が始まります。極端です。こんな極端さが人間から人間らしさを失わせ、疲弊させているのかもしれない。

現在注目の、iPS細胞（人工多機能性幹細胞）の開発とシェールガス掘削。科学や技術の進歩に人間がついていけない危うさを感じてなりません。iPS細胞に関しては扱う人間の倫理観がもっと、もっと成熟しなければ、と思いますし、頁岩に存在するガスを取り出すために、地底深くの岩盤層に傷をつける事を畏れます。両者ともに、まだまだ人間が扱える領域では無い、と思えてしまうのです。

もっと便利に、もっと安価に、もっと快適に。人間の欲望は尽きることは有りません。

いまや店舗には日常的に、日本中、世界中の品々が並びます。温室効果ガスをまき散らしながら、飛行機で、船で、車で、運んできた品物です。それなのに、安易に捨てられる物も多いのが現状です。

飽くなき探究心による研究の結果、現在、私達は信じられないほどの恩恵を受けています。しかし、もう、そろそろ満足しても良い時期が来ている様な気がしてなりません。今、現在の恩恵に感謝し、充足させる時だと思えます。身近な自然に程良く入り込み、手を入れ、恵みを頂く、そんな生活が成り立つ社会を願っています。自分の足で歩くことが出来る範囲で、必要最低限の生活が完結できる社会こそが人間らしく生きていける社会だと思えます。

私が現在住んでいる綾町を中心とする照葉樹林帯は今年7月ユネスコエコパーク（人間と生物圏計画 MAB-Man and Biosphere の愛称）に登録されました。エコパークは自然環境保全の為の原則立ち入りが禁止されている核心地域、環境教育や観光に利用できる緩衝地域、人々が持続的な暮らしを営む移行地域から成り立っています。我が家は移行地域と緩衝地域の境界近くに有ります。そのため、勿体無いくらいの自然に恵まれています。車が無くしては生活を成り立たせるのは困難です。中心部の大型店舗、車の普及のせいか、閉店した商店が目立ちます。個人商店も、自然も、一度失われると取り戻すのは至難の業です。

せめて自然は大切にしたいと思えます。戦後植樹した針葉樹が育ってきたにも拘らず、林業の衰退で放置されている所もあり、山体崩落を危惧する人もいます。“てる

はの森の会（綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会）”が中心となり間伐ボランティアなどが、針葉樹を伐採し、もとの照葉樹の森の復元を試みる他、町は、町内産の木材を使った建築には補助を出す、などの努力を重ねています。今年の間伐は、綾中学の生徒たちがボランティアで参加しました。中学生のころから地元の自然に馴染むことは素晴らしいことだと思います。

今から 50 年近くも前に、森を宝と見抜き、国の伐採計画から死守された郷田実前町長の英断には敬服しますし、現在、地道に啓蒙活動を続けておられる、河野耕三さんは常に穏やかで素晴らしい方です。

宮崎県北西部の西臼杵郡五ヶ瀬町には全国で最初に出来た公立の中高一貫校があります。全寮制で「自然を学び、自然に学ぶ」プログラムが有り、町内の家庭でホームステイをし、親や親戚とは違う大人達と寝食を共にし、価値観の多様性を体感しています。地元の様々な伝統や文化から自分で見つけたテーマを調べるなど、体験と探究に取り組み、自立を自然の中から身に付けさせているそうです。このフォレストピア学習は高く評価され、この学習に憧れて県内全域から生徒が集まっていると言います。

宮崎県中央部の児湯郡の木城町の森の中には“えほんの郷”という体験型の文化発信施設があり、自然と触れ合う様々な催しを通して子供だけでなく大人の心を豊かにする取り組みをしていると言います。

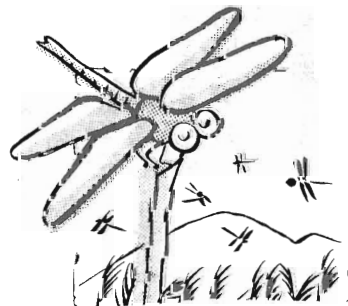
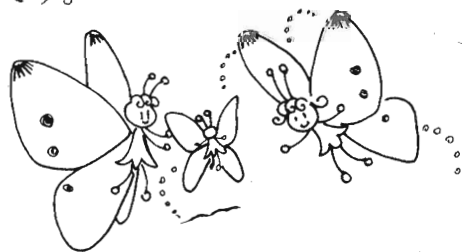
何れも直ぐには結果は出ませんが、子供たちにとって最大の環境である大人たちの一歩が子供を幸せに導くのだと感じています。

11月24日、早朝とお昼前、二度も宮城県で震度4の地震が有りました。前日、丁度宮城県で開催されているNHK杯フィギュアスケートのショートプログラムで宮城県出身の羽生結弦選手が高得点でトップにたっていました。フリー直前のかなり大きな地震。恐怖の思い出が甦ったのではないかと心配でした。後半、疲れからかミスも有りましたが、首位を守り切った彼の滑りは震災からの復興への祈りのように見えました。

一日も早く、東北が元の豊かさを取り戻すことが出来ます様に。

そんな思いを叶えてくれるように、25日、アサギマダラが我家の庭にやって来てくれました。昨年、綾競馬に行く途中、山茶花の蜜を吸うアサギマダラを沢山見かけました。今年も期待して出かけましたが、残念ながら出会えませんでした。

今年はまだ駄目かも、と諦めていましたが、今朝、ビックリするほど大きくて鮮やかなアサギマダラが綾南川の方角から翔んできてくれました。何か良いことが有りそうです。



(K. O.)

日口の歴史に新たなページ

ロシア公演を支えた地元関係者に謝意と感想を語る役者ら—9日午後8時15分ごろ、松山市一番町3丁目



「誓いのコイン」
現地公演報告会

松山

9月14、19日にオリジナルミュージカル「誓いのコイン」のロシア公演を行った東温市見奈良の常設劇場坊っちゃん劇場が9日、松山市一番町3丁目の松山全日空ホテルで同公演の応援委員会への報告会を開いた。

応援委員会は、県内の経済、文化関係者ら13人が発起人になり8月上旬に発足。応援委

愛媛新聞より
2012.10.10

2012.10.10

員や協賛には144の地元企業や団体などが手を挙げ、同劇場初の海外公演実現に向け金銭面でのサポートなどを行っていた。

報告会には、委員会関係者ら約180人が出席。訪問団団長を務めたショイ・テートの「理解、応援してくれたい」など感想を語った。(末光徹)

「これが逆だったらどうなると思う？」9月中旬、坊っちゃん劇場(東温市見奈良)のロシア公演同行取材中、役者が切り出した。

「観客の反応も良く、充実した舞台直後の問いかけだった。質問に沿って状況をイメージしてみた。バレエやサーカスじゃなくロシア製のミュージカルが愛媛にやってくる。テーマは平和や日口の友好。作品の舞台はなじめないロシアの地方都市で、さらに役者は名もないロシア人劇団員たち。県内演劇の集客状況を踏まえ、「満員にはならないかも」と答えた。役者も「自分もそう思う」とかどもの

逆の場合 生活文化部 末光 徹

2012.10.10(木)

悲しい表情を浮かべた。松山と同規模人口のオンラインブルクでは、国などが運営する公的劇場が五つある。専属役者を持ち、古くからさまざまな舞台が毎日のように上演されている。

地域に劇場が存在することで、多様な文化芸術を受け入れ楽しむ習慣を根付かせる。常設劇場である坊っちゃん劇場の価値にロシアであらためて気付かされた。

取材 最新線

同劇場はモスクワで1回、カザフスタンとの国境近くの地方都市オレンブルクで3回を上演。すべて満席で計1800人を劇場に集め



「最近の活動あれこれ」

ご無沙汰しています。皆さまお元気ですか。高知もずいぶん寒くなってきました。今年紅葉がきれいですね。忙しさの中で、時々日の光に輝くもみじの色の鮮やかさに心を奪われます。

先日、講演を頼まれて仙台の東北文化大学に行ってきました。講演のテーマは「最新の自閉症児の超早期療育モデルの紹介」です。いの町で2, 3年前から試行しているアメリカのUCLA MIND InstituteのEarly Start Denver Model (ESDM)について、実際に私が子どものセラピーをしている場面のビデオを見せながら概略を紹介しました。1歳台からの自閉症児のための療育として高い評価を得ているこのESDMの考え方と具体的手法は、聴衆である大学関係者、幼保の先生方、父兄に刺激的だったようで、とても好評でした。私自身今63歳でいつ引退しようかなどと考えたりする昨今でしたが、もっと頑張らなくてはと勇気をもって来ました。

仙台では、お願いして名取川の河口の被災地にも行ってきました。映像で見るよりずっと広い範囲が一面茶色の世界でした。がれきは片付けられていましたが、家々が建っていたであろう敷地を示すコンクリートの枠があちこちに見え、津波が押し寄せるまでそこに町があり、にぎやかな人々の暮らしがあったと思うと何とも言えない気持ちになりました。

3. 11福島原発事故以来、私は居ても立っても居られない気持ちで、高知で原発に反対する運動を再開しました。2011年4月には高知の仲間とともにグリーン市民ネットワーク高知を立ち上げ、デモ、講演会、勉強会、映画会と考えられることは何でもやろうと、遮二無二活動してきました。人々の反応は以前と異なり、好意的な人が増えています。3. 11から積極的に活動し始めている人も多く、また福島や関東方面から避難してきた人たちも、意識が高く素敵な人たちで、新たな輪が広がりつつあります。

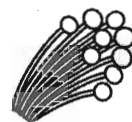
とはいえ、今の状況は、特に福島に対する対応や政治状況は必ずしも明るいとはいええず、むしろ絶望的に感じられます。未だ福島原発は放射能を垂れ流し続けていますし、いつ何時4号炉が倒れ、使用済み核燃料が爆発するか分らず、メルトスルーしている核燃料が地下水と反応して水蒸気爆発するかもしれないなど様々な不確定要素があります。決して収束などしていません。そして何より気がかりなのは、福島県および周辺では放射線管理区域に相当する高い放射能が存在する中で400万人の人が避難もできず暮らしている。中には多くの子どももいるのに。それらを考えただけでも、早く原発はもう止めなきゃと思います。でも、どうもお金の亡者達は、放射能は見えないことを良いことに、もう原発事故はなかったものとして、原発をまた動かしていきたいのでしょう。これまで、広島・長崎、ビキニ、劣化ウラン弾、チェルノブイリなどなど多くのヒバクシャを生んできた事実を過小評価し、内部被曝の事実を無視して、核と原発を推進してきたように。

こんな事を考えると、毎日憂鬱になります。こんな時に、福島の武藤類子さんのことばを思い出し、気を取り直します。「原発をなお進めようとする力が垂直にそびえる壁ならば、かぎりなく横に広がり、つながりつづけていくことが、私たちの力です」、「私たち一人一人の背負って行かなくてはならない荷物が途方もなく重く、道がどんなに過酷であっても、目をそらさずに支え合い、軽やかにほがらかに生きのびていきましょう」。

今日は、山の畑に行って、大根の間引きをしてきました。山の晩秋の午後のひとは、かけがえのない時間でした。また明日は講演。原稿の締め切りがあと2つ。今週末の共同購入の会「土といのち」の臨時総会の資料作り、日本地域経済学会のシンポジウムの発表準備と日常の忙しさは切れ目無く続きます。またあしたも元気にがんばろうっと！

2012年11月25日

高知県のいの町 丸井美恵子



編集後記

2012年1月の総会で、1年間の活動計画を立てた。「今年暮れの12月発行の『井戸端だより』は80号になるね。という事は丸20年続いていることになるよね。80号記念誌を出そう。泉と蝶の写真を入れたカレンダーも作りたいね」と、全員一致。このプロジェクトが動き出したのは10月に入ってから。50号記念誌を参考にしながら、具体的に内容を決める。写真部分のコピーと製本の糊づけは業者に頼み、その他は全て手づくりにする。

11名の会員から12編の原稿、記念号にふさわしい沢山の原稿が集まった。私自身も20数年を振り返るいい機会でもあった。

皆で協力して、出来あがった『井戸端だより80号』、特に、カレンダーはパソコンで写真加工ができる綾町在住のOさんに依頼した。撮りためた写真をCDに入れて送りその中から選んでもらう。しかし、OさんのPDFで作成したカレンダーは、私方にそのソフトが入っていないため開けることはできても、皆の意見を取り入れた修正ができず、何度もメールでやり取りをしてお互い苦労した。遠くにいても喜んで編集作業に参加してくれたOさんに感謝です。

カレンダーは記念誌と一緒に皆さんにお届け致します。

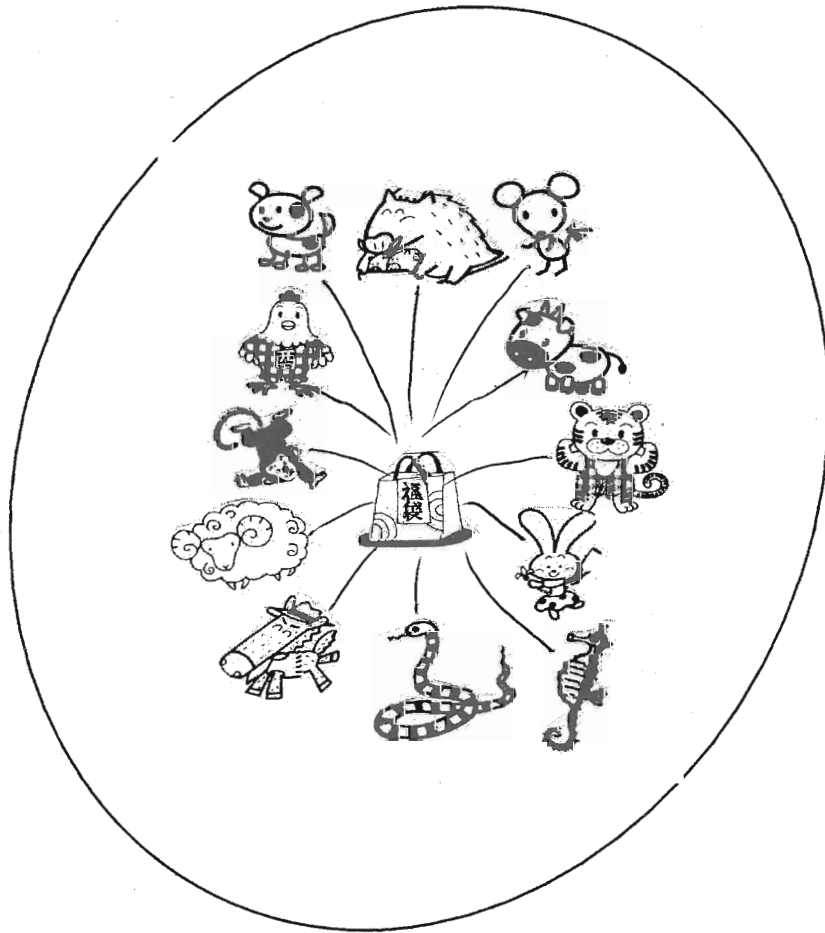
20年前はと言うと、ちょうど息子が大学院を卒業した頃。各社から来た求人誌は段ボール箱一杯になるほどだった。今は、働く意思があっても、働く場所のない就職難。そして少子高齢化社会。我が家も夫婦で2人の子どもに、孫は1人。今まさに少子高齢家族になってしまった。先日の同級会で「子ども4人に、孫が14人います」の話にみな拍手した。

10月には、東温市の市長・市議会議員の顔ぶれが決まった。国内では乱立する政党がしのぎを削る衆議院議員選挙の真最中。80号が皆さんのお手元に届くころには新しい国会議員が決まっている。私利私欲にとらわれることなく、せめて、将来を託す子ども達に、恥ずかしくない行動を示して欲しい。

尚、表紙の虹の写真は、2011.8.13午後5時53分志津川団地から撮影したもの。目の前に現れた180度の2重の虹を見つけ、急いでデジカメで撮影。あまりにも近すぎて1枚に収めきれなかった。3枚の合成写真になってしまって残念。

皆さま 良いお年をお迎え下さい。

(S・K)



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000 円／年 購読会員 1,000 円／年
振込先口座番号 (郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026
問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956
E-mail: kt-hayashi@nifty.com

発行: くらしの学習会
発行日: 2012.12.14